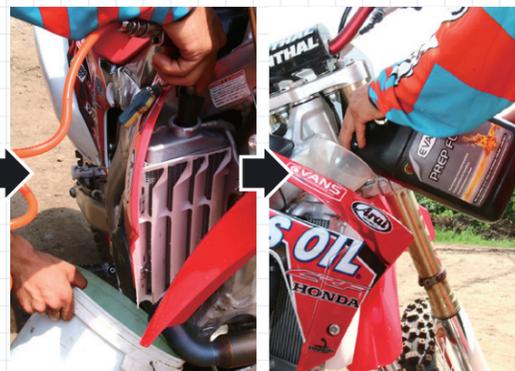




**通常のクーラントは5回で噴いた**



まずは通常のクーラントでテスト。走行直後はキャップを開けることができないので、外側の温度を計測したため、実際には110℃ほどと想定。5回スタートしただけで、クーラントは噴きこぼれ始めた



まずはエアを使ってクーラントを完全に除去。その後専用洗浄剤のプレップフルイドを使用。冷却システムを洗浄して、パワースポーツの性能を発揮させる

**何度スタートしても噴かない、驚異の安定性。  
「雨の日のレースにも有効です!」**

**キャップを開けても大丈夫!**

通常はありえないシーンだが、パワースポーツは沸騰しないので、走行直後にラジエーターキャップを開けることが可能! 水温計を中に入れて実測するという、本企画ならではのテストとなった

モトクロスやエンデューロなどエンジンに高い負荷がかかるシチュエーションで、安定した冷却性能を発揮するパワースポーツを投入する。本テストはCRF450Rを使用した。後方排気のYZ450Fはエキパイがエンジンを囲むので熱がさらに上がりやすい。よりエバンスが有効と言えます」と東福寺氏



**温度は上げ止まり。その後安定!**

パワースポーツの温度は3回走行: 107.4℃→6回走行: 109.2℃→9回走行: 111.7℃→12回走行: 115.5℃と上昇。15回目以降はこれ以上上がらなかった。110℃前後まで上がるものの、そこで安定するのが特徴とも言える



「沸点190℃まで耐えてしまうが故に、車両の仕様や使用状況によっては、ある程度の気配り(水温管理、耐熱性のあるパーツ選定など)が必要ないケースも考えられるが、モトクロス、エンデューロライダーの強い味方であるのは間違いないとさぞだ。

「沸点190℃まで耐えてしまうが故に、車両の仕様や使用状況によっては、ある程度の気配り(水温管理、耐熱性のあるパーツ選定など)が必要ないケースも考えられるが、モトクロス、エンデューロライダーの強い味方であるのは間違いないとさぞだ。」

**パワースポーツ**  
容量:0.5USGal (1.89L)  
価格: ¥12,000 (税抜)



**プレップフルイド**  
容量: 1USGal (3.77L)  
価格: ¥14,500 (税抜)

**EVANS** ダートスポーツ SPECIAL TEST **の実力を探る!!**

沸騰しないラジエータークーラントとして話題のEVANSパワースポーツ。全日本モトクロスやJNCCなどトップライダーが愛用することで注目を浴びているが、果たしてその実力は? ダートスポーツではその性能を探るべく、東福寺保雄氏にテストしてもらった!

PHOTO&TEXT/D.Miyazaki 宮崎大吾  
SPECIAL THANKS/  
EVANSジャパン TEL03-5777-1616 www.evans-japan.co.jp  
T.E.SPORT TEL049-242-8401 www.tesport.net  
取材コース/埼玉県モトクロスヴィレッジ TEL049-245-4141 www.westpoint.co.jp/motocrossvillage/



**取材協力**  
東福寺保雄 (T.E.SPORT)

全日本モトクロスV9の経歴を持つ元チャンピオン。T.E.SPORT代表としてスクールなどのイベント開催、レース転戦、ライダーの育成やメンテナンス、セッティングなど精力的に活動中。T.E.SPORTでは中野洋子選手、大塚豪太選手などがEVANSを使用中



テスト日は38℃以上ある猛暑日。そこで熱量の高い450ccで15回連続のスタート走行という、過酷なテストを敢行。まったく噴くことなく最後まで温度も安定していた

**モトクロスにもエンデューロにも有効!**

全日本モトクロスではTeam HRCやT.E.Sポーツが、JNCCでは鈴木健二選手や内山祐太郎選手、石井正美選手、小池田猛選手、斉木達也選手など多くのトップチーム、ライダーが愛用している。エバンスのウォーターレスクーラント。「脅威の沸点190℃がオーバーヒートを極力防止し、無水なので劣化や腐食を防止」など、ライダーには嬉しい機能ばかり。はたしてその実力は本物のなか、真意を探るべく東福寺保雄氏のもとを訪れた。

テスト車両はCRF450R。バワーがある4ストローク450は元々熱が上がりやすいが、さらにアイドリングを高めて、スター

「モトクロスでは雨のレースに有効ですね。今まではキャッチタンクを装着してましたが、設置場所も少ないですし、長時間走行ではそれでも水がなくなりますが、ラジエーターキャップも標準の1.1kから1.8kまで上げていますが、上げ過ぎるとヘッドが傷みますからね。確かに温度は上昇するんですが、通常のクーラントが100℃で沸騰してなくなってしまうことのリスクを考えると、はるかにエバンスの有効性があると思います。もちろんエンデューロにもすくなく

ト練習を15回繰り返すという過酷なテストをおこなった。しかも外気は38℃近い猛暑日。

スタートを繰り返して、最終的にはクーラントの温度は115.5℃まで上昇。エバンスパワースポーツの特徴は、一般的なクーラントと違って、温度がある程度まで上がるものの、ここで安定する。文字通り水分を含まない(特許取得)日本発のクーラントである。水を含まないため水蒸気の発生、膨張がなく、非常に噴きにくい。冷却システムのトラブル防止に最大のパフォーマンスを発揮するのだ。高温高負荷時にも効率的な冷却性能を維持し、一般的なクーラントよりもわずかに温度は上がるが、エンジンにとって安全な領域を保ち、圧力がかからないので、走行直後にラジエーターバルブを開けても噴き出さない。

一般的なクーラントでは5回ほどのスタート練習で噴いてしまっただが、エバンスパワースポーツは15回以上繰り返しておこなったスタートダッシュ走行に対しても噴かずに安定していることを実証した。東福寺氏は